

指定校番号	29050	学級活動	生徒会活動	学校行事	○	中学校用
-------	-------	------	-------	------	---	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立吉和中学校	校長	村田 聡之	生徒指導主事	濱原 光伸
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『吉中太鼓』**取組のねらい『自己存在感を高める』**

吉中太鼓は今から31年前、「荒れた学校の立て直しと居場所を無くした生徒の学校への定着」を念じて生まれたものです。当時の吉和中学校は、暴力行為も多発し、学校に位置付かない生徒たちを、どうやったら学校に位置付かせるか、課題のある生徒の居場所づくりを目的として誕生しました。その後、吉中太鼓を通じて自己存在感を高めることを目標に、全生徒を対象として、総合的な学習の時間を利用し、「心で打つ太鼓」を目指しています。

**身に付させたい資質・能力『コミュニケーション能力の育成』**

生徒の育成したい資質・能力を「コミュニケーション能力・思考力」と設定し、生徒の吉中太鼓に対する意欲を向上させ、コミュニケーション能力の育成を図る。

取組の具体的内容『主体的な学び』

太鼓の練習は、総合的な学習の時間を利用し、6月からスタートし、3月(12月は無し)まで、毎週学年に応じた練習を行っています。文化祭やバチの受け渡し式ではそれぞれの学年が、練習してきた成果を発表しています。また、3年生は校内での発表にとどまらず、地域のイベントや、尾道市のイベントにも積極的に参加しています。

吉和こども祭り(8月)	運動会(9月)	吉和地区敬老会(9月)
尾道トラック祭り(9月)	吉和町民フェスティバル(11月)	文化祭(11月)
尾道青少年健全育成大会(11月)	バチの受け渡し式(3月)	



発表の場をいくつか設定することで、1・2年生は、3年生の太鼓を目標に、3年生は今回の演奏よりは次回の演奏と、昼休憩の時間も積極的に体育館へ行き、曲を聴いてくれる方々をいかにして感動させるかを、自ら考え課題を持って、主体的に練習に励んでいます。

取組の課題・創意工夫『継承』

現在、3年生が31期生となり、練習は退職された吉中太鼓創始の先生の協力のもと、本校職員で指導に当たっています。昨年度、吉中太鼓創設30周年を迎え、尾道市教育委員会より「きらり賞」を頂きました。しかし、誰もが指導できるわけでは無く、指導の後継者を育成しながら、今日に至っている。今年度は新しいメイン指導者のもと、職員が一丸となって、太鼓の指導を行っています。



取組の成果（効果）『太鼓が人を変える』

3年生になり、人前で発表が増える頃になると、3年生の意識が変わり、ルールを守らなかった生徒も、リーダーや周りの生徒の声かけにより、次第に集団の中に入っています。

更に太鼓の頭(リーダー)は、太鼓の練習を仕切るだけにとどまらず、吉和中学校を仕切っていくリーダーとして大きく成長し、吉和中学校に在籍する、すべての生徒のあこがれのリーダーへと成長しています。



今後の展開『吉和中で学んで良かった』

近年、本校への入学者が大きく減っています。吉中太鼓の取組を通して、主体的な学びを継承し、生徒の自己存在感を高め、吉和中で学んで良かったと言える生徒を多く輩出していきたいです。



他校へのアドバイス『核』

ひとつの行事を継続することの大切さと、自校の教育の根幹をなすものを見つけることです。